

開会挨拶

皆様、こんにちは。そしてオンラインで海外から参加されている方の中には、朝の方もおられると思います。おはようございます。国際協力機構(JICA)、上級審議役の窪田でございます。

本日は、JICA 食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)第5回年次フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。昨年は対面での参加は非常に限定的でしたが、本日は対面でも多くの方にお集まりいただき嬉しく思っております。

--

さて、このJiPFAですが、農林水産、食料・栄養分野における産学官の課題解決のための情報共有・連携促進を目的として2019年に設置されたものですが、早いもので4年が経過しました。

その間、世界の食料・栄養の問題は更にクローズアップされてきたのではないかと思います。

一つはコロナ禍を契機とした国際物流の停滞による食料の不足、更にはウクライナの紛争で一時的にウクライナからの輸出が止まることとなり、それらの穀物に依存していた国が非常に困難な状況に陥ることとなるなど、国際的な食料システムの脆弱性というものが露わになりました。このため、特に途上国などでの国内生産、国内自給の重要性が改めて認識されるようになってきたと思います。

また、昨年は地球全体で今までで一番暑い年で「地球沸騰の時代」とも言われ、気温上昇が止まらない状況が続く脅威となっています。

このような複合的な危機に対応し、SDGsを達成するためにも、産学官がそれぞれの強みを生かして連携を行っていくことが不可欠であります。JICAとしてもその連を促進する本プラットフォームを更に活性化させていきたいと考えております。

--

現在、世界の食料安全保障は重大な課題に直面していますが、その課題にはいろいろな側面があると思います。十分な量の生産が出来ていない生産の問題、生産したものが十分に消費者に届いていない流通の問題、栄養が偏った消費の問題等々、今、申し上げた以外にも本当に数多くの側面の課題があります。

本日のフォーラムはその中でも作ったものを十分に利用するという事で、「食品ロス削減を通じた食料安全保障への貢献」をテーマに掲げています。多くのエネルギーを用いて生産された食品が先進国では廃棄され、一方、開発途上国では生産段階から市場に届くまでの過程で大

量の食料が失われています。

このテーマのもと、フォーラムの第1部では、「食料安全保障の潮流を踏まえた JICA の取り組み」をご紹介します。

また第2部では「食品ロス」の削減に取り組んでいる事業を取り上げます。開発途上国における食品損失削減やエネルギーの無駄の大きな原因となっている食料チェーンに関して、株式会社 SPEC(スペック)の久保様、上林様より、また日産スチール工業株式会社の西本様より、現場での取り組みをご紹介します予定です。

加えて、この問題は開発途上国から農産物やエネルギーなどの一次産品を輸入する先進国や新興国を含む全世界共通の課題であり、多くの国で食糧問題に取り組む国際連合食糧農業機関(FAO)駐日連絡事務所の日比様にお願ひしまして、食料チェーン全体での食品ロス削減の展開について貴重なコメントや提言をいただく予定です。

--

世界の食料問題解決には、我々一人一人の貢献が大きな一歩となることを信じています。そのためにも、皆様がこのフォーラムを通じて得られる知見や経験によって、次の食料安全保障に向けた取り組みに大きな影響を与えることができると願っております。私たち JICA といたしましても、本フォーラムにご参加いただきました皆様と共に、この重要な課題に取り組むための知見やスキルを共有し、具体的な解決策を模索したいと思います。

本日のフォーラム、皆様の積極的な参加と貴重な意見をお待ちしております。
どうぞよろしくお願いいたします。

(End)